体験・交流型の修学旅行を提案

和歌山県・南紀州

海かがやき 山ひびく 清流の里
ほんまもん体験で深い学びを

紀伊半島の南部に位置する和歌山県南紀州エリアは、温暖で歴史ある温泉地と、農林漁業をなりわいとする地域です。山、川、海と三拍子そろった自然の中で「民泊」「ほんまもん体験」を通して、人情厚い地域の多くの人たちと交流していただきます。「生きる力を育む」に加えて「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて事前・事後学習を通して体験学習を通してより深い学びとなるよう質の高い受け入れを目指しています。当地域での体験活動が効果的なものとなるよう、地域の魅力と課題についての提案シートをご活用いただきます。

地域の魅力

①山、川、海が30分のエリア内にそろい、豊かな自然に恵まれ温暖で明るい②山の幸、川の幸、海の幸が新鮮でおいしい③世界遺産「熊野古道大辺路」が地域を通っている

地域の課題

①雇用の場が少ない。若者が少ない②鹿、猪、猿、カラスなどによる鳥獣被害が深刻③耕作放棄地、空き家の増加

農林漁家生活体験（民泊）

民泊協力家庭が130軒。1軒に4人として500人の受け入れが可能。民泊では半日、1日などの家業田舎体験、「ほんまもん体験」を選択。お客さまではなく、家族の一員としてお迎えし、作業を手伝い、家庭の団らんを味わい、「心豊かな田舎の暮らし」を体験します。食事は自家食材とし、食材を採りに行くところから始め、新鮮な野菜や魚が「ほんものの味」を教え、郷土料理のおいしさに気付いてもらいます。共同調理で初めて経験する魚さばきに挑戦し、「魚の目が怖い」と言いながらも生物の命をいただいて生きていることに感動したり、「野菜のみじん切りができるようになった」と喜んだり、食事作りは楽しい交流の場であり、学びの場となります。

森林での間伐体験

リバーカヌー体験

一本釣り体験

ほんまもん体験の品質、安全対策

安全で教育効果の高い受け入れ実施のため、防災対策と衛生対策の指導責任者を置き、安全管理、衛生管理を徹底しています。インストラクターのクオリティアップ研修会、民泊研修会、地区懇談会を開催し、会員の資質向上を図っています。特に災害時の避難地図を作成し、緊急連絡体制を整え、安全対策には万全を期しています。

お勧めほんまもん体験

一本釣り体験（40人）

漁船に乗り、地元漁師の指導のもと、黒潮海流の豊かな漁場で太平洋を肌で感じ、漁を体験し、釣れた魚は調理して試食します。食育を通して漁食文化に対する理解を深化させます。

林業間伐体験（40人）

紀州木の国で山を守り育てる林業の間伐体験は環境学習であり、ノコギリを使って木を倒す危機管理も学習します。

リバーカヌー体験（50人）

清流日置川をカヌーツーリング。木材を川流していた時代と同じルートを通り、人々の暮らしを守ってきた川文化を学びながら川面に鮎の跳ねる様子を間近に見る野趣あふれる感動体験です。

アクセス

新大阪から高速道路を利用し、日置川インターチェンジまでバスで約2時間30分。JR特急くろしおで新大阪駅から紀伊日置駅まで約3時間（貸し切り臨時列車利用＝紀伊日置駅発着可能）です。

民泊家庭の指導で南高梅の木のせん定を体験

一般社団法人 南紀州交流公社
担当：佐本　真志
〒649-2532 和歌山県西牟婁郡白浜町安居306-1
TEL 0739-53-0055　FAX 0739-34-5010
E-mail: minamikishu@samba.ocn.ne.jp
URL http://www.minamikishu.com/

広島湾ベイエリア・大崎上島

自然と歴史、産業と文化
人情豊かな感動の島

広島県大崎上島町は、瀬戸内海のほぼ中央に位置する面積43・29平方キロメートル、人口約7600人の離島です。本土とは、竹原、安芸津港とフェリーで海上約30分で結ばれており、その他、大崎下島、大三島、今治市との航路もあります。

離島ではあるものの、山陽自動車道、広島空港などにより主要都市とは短時間で結ばれています。

瀬戸内海特有の温暖な気候と風光明媚な環境の中、島という限られた土地に生き、造船業海運業、ミカン、レモン、デコポンなど多種類の柑橘栽培をはじめとする農業、水産業など、先人たちのたゆまぬ努力によって発展してきました。

平成23年から体験型修学旅行の受け入れに向けてスタートし、島の特性、文化を生かしたさまざまなプログラムを用意しています。中でも一番のおすすめプログラムは、2000年以上の伝統を誇る「櫂伝馬」体験です。

昔は陸の伝達手法は早馬でしたが、櫂伝馬は海での情報伝令の役目を担った木造船で、14人の漕ぎ手と太鼓1人、船頭1人の16人が乗り込みます。それぞれのポジションで役割を担い、独特の掛け声と太鼓で調子を合わせ、心を一つにして櫂の動きを合わせなければならない。

生命について学ぶシーカヤック体験、刺網漁や船釣り、波止釣りでとれたばかりの魚の調理体験、タイやヒラメの養殖漁業体験、温暖な気候で育まれたミカン、レモン、デコポン、はるみなどの多種類の柑橘やブルーベリー、イチゴ、トマトなどの栽培過程を学ぶ農業体験など島をまるごと体験していただけます。

また、民泊登録家庭も160軒を超え、約280人の受け入れが可能で、島の人々と生活を共にすることにより、豊かな自然と島独特の人情を感じていただき、島の人々の生き方や命の源の食生産を担う農山漁村の役割を考え、理解する機会となります。これら「まるごと島体験」から、自らの生活や家庭、生き方を省みる機会となり、生きる力とゆたかな心を育むきっかけになればと考えています。

皆さまに安心して来島いただけるよう安全、衛生、防火など各種講習会を行い万全の体制でみなさまをお迎え致しますので、ぜひ大崎上島にお越しください。

【お薦め体験】

①櫂伝馬（体験人数112人）

和船文化を受け継ぐ大崎上島に200年以上も前から伝わる木造船。瀬戸内の水軍が偵察船として使用していたとされる櫂伝馬で心を一つにチームワークの大切さを学びます。

②シーカヤック（体験人数120人）

瀬戸内海の無人島周辺を航海します。また、プランクトンや稚魚がすむ「魚のゆりかご」と呼ばれる瀬戸内海でも有数の甘藻場の観察をし、環境学習をします。

③農作業体験（体験人数100人）

瀬戸内海特有の温暖な気候で育った柑橘類やブルーベリー、トマト、イチゴなどの栽培過程から、農業の厳しさや食について学習します。

チームビルディングに最適な櫂伝馬体験

農業や食を学ぶ農業体験

島ならではのフェリーでのお別れ

瀬戸内海で船釣り体験

シーカヤック体験

広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会
（広島商工会議所　産業・地域振興部　地域振興チーム内）
担当（大巳・櫓崎）
営業時間　月～金曜日　8：30～17：30（祝日は除く）
〒730-8510 広島市中区基町5-44
TEL 082-222-6641　FAX 082-222-6411
E-mail:hiroshima@hiroshimacci.or.jp
URL http://www.hiroshima-bayarea.net/

広島湾ベイエリア・庄原市

平和学習と併せた体験交流
心温まる里山の暮らしを

庄原市は、広島県の北東部に位置し、世界遺産の原爆ドーム（広島市）からバスで約90分の距離にあります。中国山地のほぼ真ん中に位置し、豊かな自然に囲まれた庄原市の魅力は、なんといっても美しい里山の風景とそこに生きる人々の温かさです。県内最大級の農業生産量を誇り、お米や野菜、果実といった農作物に加え、畜産も盛んでブランド和牛「比婆牛」の産地としても知られています。

①心が通じ合う「民泊体験」

現在庄原市では160軒の民泊家庭があり、330人程度の受け入れが可能です。そんな庄原市の民泊体験の特徴は、生徒の皆さんと民泊家庭の「心の交流」であり、お互いに「家族の一員」として過ごす中で、一緒に笑い、協力し、食卓を囲み、同じ時間・体験を共有し人との絆や温もりを感じながら、コミュニケーション能力の形成を図ります。また、「知識では分かっていても実際に体験するとうまくいかない」という経験と、そこから自分で考え、実践し達成できることも重要なポイントです。

自然と寄り添う里山の生活と、そこに生きる人々の英知には子どもたちの能力を育む力があります。子どもたちの未来のために、今、庄原市の「人と資源」が大きく貢献できると考えます。

②中国山地の清流を満喫「ラフティング体験」

8人乗りの特殊なゴムボートに乗り込み、みんなで力を合わせて川を下る「ラフティング」は、チームワークと主体性の醸成に最適。フィールドとなる西城川（コース全長約6キロ）では、中国山地の美しい大自然を満喫することができます。また、西城川は古来より舟運として利用され、今でもその名残を垣間見ることができ、歴史、地理、環境など多岐にわたって学ぶことのできるプログラムです。※6月11日～8月31日を除く。

③チームワークが勝利の鍵「スポーツ雪合戦体験」

「YUKIGASSEN」として世界中に広がり、国際大会も開催されている「スポーツ雪合戦」。庄原市は、西日本最大規模の雪合戦大会が毎年開催され、2016年の全国大会では小学生、レディース、一般の3部門で優勝するなど、全国屈指の強豪地区です。戦略、戦術を必要とし、チームビルディングが勝利の鍵となります。一瞬の判断力と精神力、何よりもチームワークが問われる戦術性の高いプログラムです。※積雪のない時期は屋内で実施。

④森林の担う役割を学ぶ「ブナ林トレッキング体験」

国の天然記念物に指定されているブナの原生林をフィールドとして、自然の中を散策しながら学習するトレッキング体験。災害が多発する昨今において、自然環境の重要性が改めて注目されています。特に局地的豪雨による土砂災害などの被害を防ぐ意味で、山や森林が重要な役割を担っていますが、一方で山林の保全管理不足による荒廃などの問題も深刻化しています。自然の美しさに触れ、理解を深めるだけでなく、自然を守ることの大切さや自分たちにできることなどを考えることを目的としています。

民泊家庭での心温まる団らん

ラフティング体験

スポーツ雪合戦

ブナ林トレッキング

広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会
（広島商工会議所　産業・地域振興部　地域振興チーム内）
担当（大巳・櫓崎）
営業時間　月～金曜日　8：30～17：30（祝日は除く）
〒730-8510 広島市中区基町5-44
TEL 082-222-6641　FAX 082-222-6411
E-mail:hiroshima@hiroshimacci.or.jp
URL http://www.hiroshima-bayarea.net/

広島湾ベイエリア・安芸太田町

人情田舎体験
絆の大切さをしっかり学ぶ

広島県の北西部に位置する安芸太田町（あきおおたちょう）は、西中国山地国定公園など豊かな自然環境に囲まれた県内で唯一山地率90％を超える山間の町で、そんな山里が広島市中心部から車でたった45分と近くにあります。昔も今も人々はお互いを思いやり、先祖を敬い、命の大切さを子どもたちに伝えながら暮らしてきました。

広島県内最少人口（6240人）でありながら、地域の結束の象徴であるお寺は30以上、神楽団は17団体、消防団活動が盛んなことなどから、人々の「絆」が極めて強い町です。

そんな人情あふれ、絆を大切にする町民宅へ民泊するからこそ、日本が古くから大切にしてきた「互いを思いやること、人と人とが協力しながら生きることの大切さ」を考え、学んでいただくことができます。

受け入れ家庭は現在89軒で160人の受け入れ（隣接する北広島町、広島市佐伯区湯来町との合同受け入れでは400人）が可能です。教育旅行にかける思いを共有してもらった家庭の皆さんは、日本の将来を担う若者たちに接することを喜びとし、全国の生徒さんとの交流を通じ、食育を学ぶ絶好の機会となります。

（ホームステイ）

民泊体験では、都市部では希薄になりつつある人と人との信頼関係、家族の絆、命を育む大切さ、命を頂くことのありがたさなど身をもって学びます。特に山間部ならではの食生活、保存食や伝統料理などを取り入れた共同調理を通じ、食育を学ぶ絶好の機会となります。

コースを全員の協力の下、2時間程度で下ります。決して激流ではない当町のラフティングは、力を合わせて下ることを主目的とし、「教育旅行的素材」としては十分な効果があり、かつ安全性を兼ね備えた教育旅行向けラフティングです。5月26日から6月6日を除く（6月7日が休日の場合、7日も実施不可）。

■おすすめ体験2　安芸太田式平和教育

当町には現在500人以上の被爆者が生活しています。原爆投下直後の凄惨な状況はもちろんですが、74年にもおよぶ長い人生をどんな思いで生きてこられたか、そしてどんな辛苦に耐え日本の復興を支えてきたのかを60～80人ごとに車座で意見交換を行いながらの相互意見交換型の講話体験を提案しております。

平和公園で資料館を見学後、町内にお越しいただき、安芸太田式平和教育を受けていただくと教育効果が大変大きいと考えております。

■おすすめ体験3　過疎化救出プログラム

新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」に対応した学校と連携して作成したプログラムです。このプログラムは、①民泊前に当町の概要について事前学習②民泊で町の現状を知る③民泊後に過疎化救出のためのアイデアを考える④そのアイデアに対して当町より復興を支えてきたのかをフィードバックを行い、感謝状を贈呈させていただく流れとなります。将来必ず訪れるであろう「超高齢化社会」について、具体的に深く理解いただくことができます。

に会えることを楽しみにしています。さあ皆さん、人情田舎体験のまち安芸太田町へきんさいや！（来て下さいね！）

■人情田舎民泊体験

■おすすめ体験1　太田川ラフティング

安全管理教育を徹底的に施されたインストラクターが指導し、約3キロの

絆や命の大切さを身をもって学ぶ人情田舎民泊体験

太田川でのラフティング

語り部を囲んで平和学習

「過疎化救出」プログラム

広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会
（広島商工会議所　産業・地域振興部　地域振興チーム内）
担当（大巳・櫓崎）
営業時間　月～金曜日　8：30～17：30（祝日は除く）
〒730-8510 広島市中区基町5-44
TEL 082-222-6641　FAX 082-222-6411
E-mail:hiroshima@hiroshimacci.or.jp
URL http://www.hiroshima-bayarea.net/